

日立地区安全衛生大会が開催されました

平成23年度全国労働衛生週間が「見逃すな 心と体のSOS みんなでつくる健康職場」をスローガンに展開されるにあたり、おいて、関係者約230名が参加し、平成23年度日立地区安全衛生大会が盛大に開催されました。

当署から全国労働衛生週間実施要綱の説明があつたほか、(社)日立労働基準協会長表彰として、次の事業場等が受賞いたしました。

安全衛生優良事業場賞

・丸善電機工業 株式会社(日立市)

・3M Purification
株式会社(北茨城市)

功績賞

・金澤 和彦 氏
(技能講習及び特別教育講師)

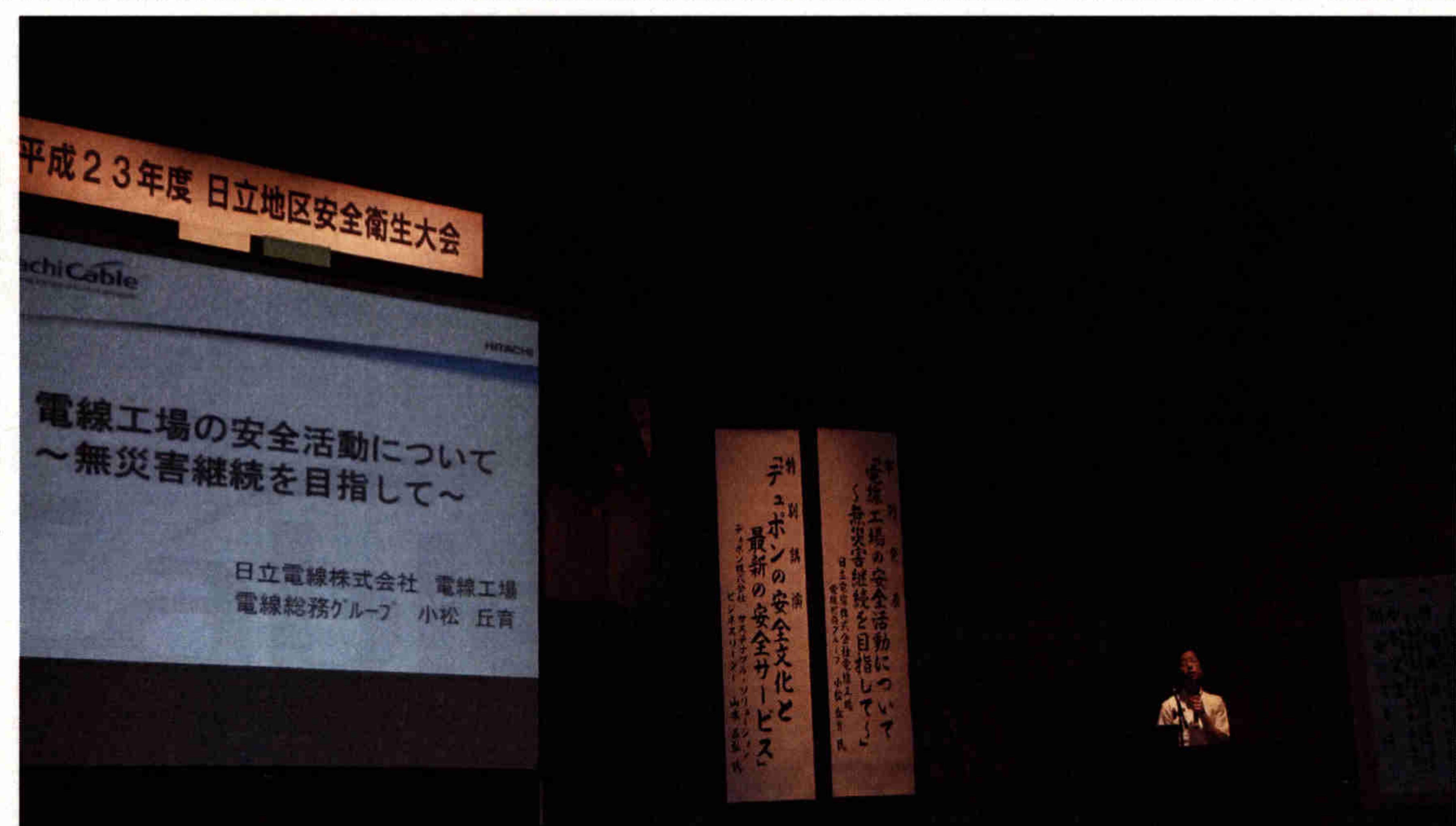
・植木 貞男 氏
(技能講習講師)

・櫻井 博 氏

(前日立協会事務局長及び講習会講師)

事例発表の小松丘育氏

(日立電線(株)電線工場)



特別講演の山本昌弘氏

(デュポン(株))



また、昨年茨城労働局長優良賞を受賞した日立電線(株)電線工場小松丘育氏から、「電線工場の安全活動について～無災害継続を目指して～」と題した事例発表のほか、続を日指して」と題した事例発表のほか、

デュポン(株)の山田昌弘氏から「安全文化の構築に向けて」と題した特別講演も行われました。最後に、安全で健康な職場づくりを目指し、大会宣言が承認されました。

大　会　宣　言

日立地区の労働災害は、各事業場の長年にわたる努力の結果、長期的には大きく減少しており、昨年の休業4日以上労働災害は、159件と過去最少を記録したところである。

しかしながら、死亡災害が昨年5件発生し、今年も既に1件発生しており、挟まれ・巻き込まれや墜落・転落による重篤な災害も依然として多数発生している。また、今年は震災の復旧・復興作業に伴う労働災害の増加も懸念されるところである。

また、定期健康診断における有所見率の増加や、過重労働による健康障害、職場におけるメンタルヘルス問題等についても対策の推進が求められている。

このような中で、労働災害の一層の減少を図り、働く人の安全と健康を確保するためには、労使が一体となって、リスクアセスメントの取り組みや心身にわたる健康対策の推進により、職場の安全衛生水準を向上させていくことが不可欠である。

本年は「安全専一」をスローガンに、わが国の産業界による自主的な安全運動が始まってから100年目にあたる。

本大会を契機に、先人の安全衛生にかけた思いを振り返るとともに、経営トップをはじめ働く人一人ひとりが、安全で健康で生き生きと働くことのできる職場づくりを目指し、さらなる安全衛生活動に、全力で取り組むことをここに宣言する。

平成23年9月7日

日立地区安全衛生大会